

LPガスの容器はなぜ灰色？

容器の色は法律で決まっています

5月の下旬、東京都江戸川区の新築住宅の工事現場でガス爆発事故が発生しました。

原因は地中に埋まっていたガス容器が工事作業中に損傷し、中に入っていた可燃性のガスに引火したことによるものでした。

この容器の色は褐色で、刻印や成分分析等の結果から、ガスの種類はアセチレンガスと判明しました。

このアセチレンガスの容器の色は褐色、私たちが家庭で使っているLPガスの容器は灰色です。灰色ではなく他の色はないのか、と思われる方もいるかもしれません。

このほかにも私たちの身の回りには、酸素や窒素、水素、炭酸ガスなど、用途に応じてさまざまな種類のガスが使われています。

これらのガスはその種類によって容器の色が法律で決められています。なので、他の色に変えることは残念ながらできません。

例えば、灰色はLPガスのほか、窒素やアルゴンなど

も同じ色の容器が使われています。

このほか、酸素は黒色、水素は赤色、液化炭酸ガスは緑色、アンモニアガスは白色、液化塩素ガスは黄色、などとなっています。

こうした容器の色でガス種を識別することで、誤用を防ぎ万が一の事故を未然に防いでいるのです。

刻印も義務付けられています

冒頭のガス爆発事故で回収したアセチレンガスの容器には、約60年前の検査合格年月の刻印があったことも明らかになっています。何らかの理由で長年放置され、地中に埋められていたわけです。

この刻印も同じく法律で義務付けられています。検査合格年月のほか、製造年月や製造会社、容器所有者登録番号、容器質量、最高充填圧力など、さまざまな情報が刻印されており、容器の適正管理に利用されています。

また、容器の適切な取扱い方法や使用期限の過ぎた容器の廃棄なども法律で厳しく規制しています。



容器の安全管理を徹底

容器の劣化や不適切な管理は、大きな事故につながるおそれがあります。

LPガス業界は、バーコードを活用した容器管理システムの導入や、近年多発する自然災害に対して容器の転倒・転落、流出防止策などさまざまな対策を推進しています。容器の安全管理を徹底することを通して、LPガスを使った安心・安全な日々の暮らしを支えています。



日本LPガス団体協議会

